

オロパタジン塩酸塩OD錠2.5mg「JG」の安定性試験(PTPシート)

1. 試験目的

オロパタジン塩酸塩OD錠2.5mg「JG」は、PTPシートを乾燥剤とともにアルミピローに封入したものを紙箱に入れている。本試験ではアルミピローから取り出しPTPシート単独で保存したものの安定性を確認した。

2. 保存条件、包装形態

保存条件:

- ・湿度に対する安定性試験: 25±2°C/75±5%RH 3か月 [遮光]

包装形態: PTP(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミニウム箔)

3. 試験項目

性状、崩壊性、溶出性、含量、硬度<参考値>

4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

5. 試験結果

	規格	試験開始時	1ヵ月後	2ヵ月後	3ヵ月後
性状	ごくうすい黄色の素錠	適合	変化なし	変化なし	変化なし
崩壊性(秒)	1分以内	19(18-21)	13(12-13)	12(11-13)	12(10-13)
溶出性(%)	15分間で85%以上	99.3 (97.8-100.7)	100.1 (98.6-102.0)	97.8 (96.4-98.9)	99.7 (98.4-100.8)
含量(%)	表示量の95.0~105.0%	101.2	100.9	101.2	100.3
	[開始時100%]	[100]	[99.6]	[99.9]	[99.1]
硬度(N)	参考値	50.8	26.0	25.8	27.2
評価		—	○	○	○

崩壊性・溶出性: 平均(最小-最大) 硬度: 1N≒0.1kgf

6. 結論

湿度条件において、硬度の低下傾向(規格内)が認められた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【崩壊性・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2015年11月

002